

出土遺物

● 天下泰平銘鬼瓦(熊本県指定重要文化財)



文字自体をデザインとした鬼瓦は全国的に非常に珍しく、天下泰平国土安穩の文字に長い戦乱の世が終わったことへの人々の思いが感じられます。

● 桐紋入鬼瓦(熊本県指定重要文化財)

出土遺物でも最大級の大きさで、本丸に通じる城門跡から出土しました。豊臣家の家紋をデザインしており、周辺勢力に対し豊臣家の権力を誇示する役割があったと考えられます。



● 慶長十二年銘軒平瓦



佐敷城の改築年代を特定する瓦で、関ヶ原の戦い以降も各大名が城郭を整備し、軍備増強を図っていたことを示しています。

同じ年号が入った瓦が水俣城跡からも出土しています。

● 朝鮮半島系瓦

朝鮮半島の技術で製作された瓦で、朝鮮出兵に参加した諸大名が使用しています。朝鮮人瓦工に日本で焼かせた可能性があります。



佐敷城跡縄張り図



佐敷城は、城山山上に総石垣造りの本丸、二の丸、三の丸が階段状に配置され、麓にも石垣が築かれるなど堅固な構造でした。

城下町と薩摩街道が通る東側を城の正面(大手)とし、高石垣や城門などで厳重な防御が施されています。

発掘調査の結果、石垣は石材や構築技術の違いなどから2度の改築を受け、さらに大量の瓦片の出土により、瓦葺き建物が石垣上に建っていたことが判明しました。

また、石垣の隅角部が著しく破壊され、城門跡の礎石や石段が抜き取られるなど、城割(城の壊し方)の痕跡が確認されました。



追手門跡

佐敷城跡関連年表

年号(西暦)	出来事(日付は旧暦含む)
天正15(1587)	5/28 豊臣秀吉が佐敷から北政所宛に手紙を書く。
天正16(1588)	5/15 加藤清正が肥後半国の領主となる。
～	この頃、佐敷城が築城される。
天正20(1592) 文禄元年	3月頃、佐敷城代加藤重次が朝鮮半島に渡る。 (梅北の乱) 6/15 島津家家臣・梅北国兼が佐敷城を乗っ取る。6/17 梅北、留守居の加藤家家臣に討ち取られる(2週間以上、占拠したとの説もある。)
慶長 2 (1597)	加藤重次、再度兵を率いて朝鮮半島に渡る。
～	この頃、改築が行われる(朝鮮半島系瓦の出土)。
慶長 5 (1600)	9/18 関ヶ原の戦いに伴い、島津軍の攻撃を受ける。 9/27～10/6 島津軍、田浦村の百姓等220人及び牛馬42頭を薩摩に連れ去る。
慶長12(1607)	再度、改築が行われる(慶長十二年銘軒平瓦の出土)。
慶長16(1611)	6/24 加藤清正、病死する。
慶長17(1612)	加藤重次が、佐敷に実照寺を建立する。
慶長18(1613)	この年、加藤重次が死去する。
慶長20(1615) 元和元年	6/29 一国一城令により、南関(鷹ノ原)・内牧城とともに破却される。
寛永 9 (1632)	加藤家が改易され、細川家が新たな肥後藩主となる。
寛永15(1638)	天草・島原の乱後に、水俣城とともに破却を受ける。
正保 4 (1647)	洪水により、佐敷城石垣を佐敷川堤防に使用する。
宝暦10(1760)	9/14 城跡に山王三所大権現石碑が建立される。
大正10(1921)	有志により城山一帯に山桜が植樹される。
昭和54(1979)	城山公園整備に伴い発掘調査が行われ、石垣出土。
平成 5 (1993)	城山整備計画に伴い発掘調査が始まる。
平成 8 (1996)	城門跡から天下泰平銘鬼瓦出土。
平成 9 (1997)	本丸通路から桐紋入鬼瓦出土。石垣整備工事始まる。
平成10(1998)	3/10 佐敷城跡が熊本県史跡に、天下泰平銘鬼瓦及び桐紋入鬼瓦が熊本県重要文化財に指定。
平成13(2001)	発掘調査が終了。
平成16(2004)	発掘調査報告書を刊行。
平成20(2008)	3/28 国史跡として官報公示される。
平成25(2013)	保存管理計画を策定。